

第2回「生物多様性 日本アワード」公募開始について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、本年3月1日より、第2回「生物多様性 日本アワード」の公募を開始いたしますのでご案内申し上げます。

「生物多様性 日本アワード」は、2010年に生物多様性第10回締約国会議（COP10）が日本で開催されるのに先立ち、2009年6月、当財団が環境省の共催で創設したものです。第1回となる2009年は、10月に「優秀賞」8団体と、その中から選出された「生物多様性 日本アワード グランプリ」1団体を顕彰いたしました。

同アワードの第2回となる本年は、「公募制」と外部有識者による「推薦制」による募集を実施いたします。寄せられた取り組みの中から、生物多様性の保全又は生物多様性の持続可能な利用に顕著な貢献が認められる取り組み5件を優秀賞として選定し、さらに優秀賞の中で特に傑出した取り組み1件をグランプリとして選出いたします。選出した取り組みは、本年10月に開催予定の授賞式で顕彰する予定です。

生物多様性の保全と持続可能な利用は、気候変動と並び、地球環境の大きな課題となっています。当財団は、COP10において採択された「愛知ターゲット」や2011年からスタートする「国連生物多様性の10年」を推進するために、顕彰制度の他、様々な取り組みを実施してまいります。

記

【「生物多様性 日本アワード」について】

1. 公募期間 : 2011年3月1日～6月30日（必着）
2. 対象となる取り組み : 日本国内における個人・団体による取り組み、もしくは日本に拠点を置く個人・団体の海外における取り組みのうち、
生物多様性の保全
生物多様性の持続可能な利用

3. 選考方法 : 下記審査委員で構成される審査委員会にて実施
審査委員長(敬称略)
岡田 卓也 (公益財団法人イオン環境財団 理事長)
審査委員(五十音順敬称略)
赤池 学 (株式会社ユニバーサル総合研究所 所長)
岩槻 邦男 (兵庫県立人と自然の博物館 館長)
江守 正多 (国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化リスク評価研究室 室長)
黒田 大三郎(環境省 参与)
宮林 茂幸 (東京農業大学 地域環境科学部 教授、
美しい森林づくり全国推進会議 事務局長)
鷺谷 いづみ(東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授)
4. 結果発表等 : 顕彰内容は、優秀賞5件(うち1件をグランプリとして選出)
選考結果は10月中旬に発表し、授賞式は10月下旬に実施する
予定です。

その他詳細は、別紙「第2回 生物多様性 日本アワード 応募要項」をご参照ください。

以上

【公益財団法人イオン環境財団について】

公益財団法人イオン環境財団は、1990年、地球環境を守るためのさまざまな活動を自ら展開するとともに、同じ志を持つ各団体への支援・助成の実施を目的として設立いたしました。設立以来、命あふれる森を取り戻すために、1998年に始めた北京「万里の長城植樹」や、昨年から実施した「南島原植樹」など、国内外において地域の皆さまとともに木を植え続けております。2010年度までの累計植樹本数は151万本にのぼります。2010年4月24日には、5カ年計画の4年目を迎えた北京「万里の長城植樹」において、植樹本数100万本を達成することができました。

以下の4つの事業の実施及び、助成その他の支援を事業目的に掲げ活動しております。

環境保全を目的とした事業

植樹、植林等の地域における環境保全事業

生物多様性の保全と利用を目的とした環境保全事業

地球温暖化防止を目的とした環境保全事業

ご参考

公益財団法人イオン環境財団 2011年度

第2回 生物多様性 日本アワード 応募要項

1. 趣旨

生物多様性の保全と持続可能な利用は、気候変動と並び、地球環境の大きな課題となっています。イオン環境財団は、2010年に生物多様性第10回締約国会議(COP10)が日本(名古屋)で開催されるのを契機に2009年に「生物多様性 日本アワード(国内賞)」、2010年に「生物多様性みどり賞(国際賞)」を創設いたしました。

2011年度は国内における生物多様性の保全と持続可能な利用に関する優れた取組を顕彰する「第2回 生物多様性 日本アワード」を実施します。今回は、下記の「公募制」と外部有識者による「推薦制」も実施します。

2010年COP10において採択された「愛知ターゲット」や2011年からスタートする「国連生物多様性の10年」を推進するために、当財団もこれらの顕彰制度の他、様々な取組みを実施してまいります。

2. 対象となる取組

生物多様性の保全

- ・森林、河川沿岸域等の生態系の保全
- ・野生生物の保護増殖、生息地保全、保護地域等の維持管理
- ・遺伝資源の保全等に資する取組
- ・上記取組の普及と理解促進、広報、学習、教育等の推進に資する取組

生物多様性の持続可能な利用

- ・特に消費、生産など、木材、水、農作物、水産物等、健全な生物多様性により提供される生態系サービスにより供給される物資もしくはサービスを持続可能な形で利用する取組
- ・上記取組の普及と理解促進、広報、学習、教育等の推進に資する取組

3. 顕彰内容

応募された候補から、生物多様性に関する顕著な貢献が認められ、今後も発展的影響をもたらすことが期待される取組5件を優秀賞として選定します。

副賞50万円を贈呈いたします。

優秀賞の中でも特に傑出した取組1件をグランプリとして選出します。

優秀賞副賞50万と合わせて合計100万円を贈呈いたします。

最終選考の対象となった個人名又は団体名を公表します。

4. 応募締切

2011年6月30日(木) 必着

5. 応募資格

日本国内に在住する団体・個人であること。

*複数の団体・組織による共同の取組も対象となります。

日本国内での活動であること。

6. 応募方法

応募書類一式を公益財団法人イオン環境財団ホームページからダウンロードして下さい。

ホームページ：<http://www.aeon.info/ef>

応募書類に必要事項を記入し、必要書類とともに下記住所までご送付ください。持ち込みでの受け取りはできません。

応募用紙はパソコンによる入力（応募用紙の書式変更は不可）か、手書きの場合は黒ボールペン又は万年筆にてご記入ください。

推薦状は、取組対象分野の有識者1名（応募団体の構成員及び利害関係者は不可）の推薦が必要です。

7. 選考

賞の選考は下記の方々からなる審査委員会にて実施します。（五十音順、敬称略）

<審査委員長>

岡田卓也(イオン環境財団 理事長)

<委員>

赤池学(ユニバーサルデザイン総合研究所 所長)

岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館 館長)

江守正多(国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化リスク評価研究室 室長)

黒田大三郎(環境省 参与)

宮林茂幸(東京農業大学地域環境科学部 教授、美しい森林づくり全国推進会議 事務局長)
鷲谷いづみ(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

8. 結果発表・授賞式

選考結果は10月中旬頃に発表いたします。
授賞式は10月下旬に実施する予定です。

9. その他

本顕彰事業および生物多様性に関する多様な取組の幅広い周知のため、
受賞した個人・団体の皆様にはイベント及び広報に関するご協力をお願いします。
応募申請書及び審査時に応募者から得た情報は、当財団の事業の目的外に使用しません。
なお、特に守秘を要する情報がある場合にはお申し出下さい。

10. 応募先および問い合わせ先

第2回 生物多様性 日本アワード 実行委員会 事務局
公益財団法人イオン環境財団
〒261-8515 千葉県美浜区中瀬1丁目5番1
Tel: 043-212-6022
Fax: 043-212-6815
E-mail: ef@aeon.info